



現場にこそ真理がある

レンゴー社長 大坪 清

「現場にこそ真理がある」。これは製造業の経営を担う私の信念である。

社長を務めるレンゴーでは、年に一度、各職場の最前線で働いている諸君が、現場の知恵を競い合う小集団・改善活動発表大会を開く。機械の操作はもちろん、営業、開発、事務などあらゆる職場で日々肌身で感じる微妙な感覚や経験を生かし、細かい改善を積み重ねた成果を競い合う。私も全国から選抜された各グループの発表に耳を傾けると共に、疑問点は容赦なく質問攻めにする。

なぜその作業をするのか、その仕事の本質は何かについて現場の一人ひとりがとことん勉強し、そして協力し合いながら専門知識を深め真剣に考えることで、知識や技術の伝承もでき、現場の真理にも一歩近づくことができる。実業を尊ぶわが国は、そうやって世界第2位の経済大国にまでなれたのだと思う。

私はグループも含め全国に100以上ある工場をいろいろと

理由を見つけては回っている。本社のある事務所でも毎朝必ず現場を歩く。五感を総動員して現場の空気を感じ取るためだが、やはり現場を知らなければ、製造業の本当の経営はできない。

今年には古河鋳業足尾鋳業所で、「安全専一」と標示板を掲げ従業員的安全意識の高揚を図った、わが国初の産業安全運動が始まってから100年という節目に当たるが、この記念すべき年に、最悪の原発事故が起きてしまったことは、残念としか言えない。現場の基本は何よりもまず安全であり、それを支えているのは、他でもないそこで働く従業員であり、その心のありようが密接にかかわっている。

最近、PHIP新書から上梓された元航空幕僚長、田母神俊雄さんの『ほんとうは強い日本』を近くの書店で買って読ませていただいた。当社の工場がある福島県郡山市のご出身で、現場を熟知された上での日本の安全保

障、国防の在り方についての考察は、その理念から具体策に至るまで、以前から賛同するところが多かったが、今回の著作でも『ほんとうに強い日本』の在り方を現場感覚で教えていただいた。

さらに驚いたことに、当社は被災した仙台工場を現場従業員の意見を取り入れ、直ちに宮城県内の別の地域で再建することをプレスリリースしていたが、これも強くなる日本の1つの例として取り上げていただき、深甚なる敬意を表している。

政治の世界も、やつと新しい首相の下で新しい体制が動き出した。自らをどじょうになぞらえ、泥臭く愚直に取り組んでいられるという。期待したい。それはまさに現場の声に真摯に耳を傾け、大きなビジョン、方向を示しながら、人心の安定を図り、国民に安心感を与えることに尽きるだろう。

やはり、現場にこそ真理があるとの思いを強くするばかりである。

本連載は、大坪清、海田万里、北川正恭、茂木友三郎、清田瞭、平沼赳夫の各氏が担当します